

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	グランディールキッズまめびよ	公表日	2026年3月28日
------	----------------	-----	------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・活動内容やその日の配置、クラスの利用人数に合わせてパーテーションで区切ったり、活動場所を遊戯室を利用したりしている。	・引き続き安全でより良いサービスができるよう環境を整えていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・基準を満たした上で、活動や個々の状態に応じて十分な配置になるよう努めている。	・十分な配置ができるよう人員の確保に努めている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・自分の物、場所が分かるように名前の横にマークを付けたりして、こども達に伝わりやすいよう手段を考え環境を整えている。	・個々の特性をしっかりと把握し、合理的配慮に努めている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・日々の清掃、消毒をしっかりと行い、清潔を保つようにしている。また翌日に必要な準備や片付けを行い、活動内容に適した環境を整えている。	・心地よい空間で園生活ができるよう環境を整えていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・パーテーションを活用したり、別室でクールダウンできるよう配慮している。	・引き続き状況に合わせて対応していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・部署内会議や日々のミーティングの中で振り返りを行い、業務改善に努めている。	・引き続き業務改善や業務効率化に努めていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者から頂いた意見は職員間で共有し、業務改善に向けて話あっている。	・引き続き業務改善や業務効率化に努めていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・部署内会議や日々のミーティングの中で意見を出し合って業務改善に繋げている。	・職員が意見を出しやすい風土作りを心掛けていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・近隣のセンターと相談し、お互いのセンターの評価を今年度より行う予定。	・評価結果をしっかりと受け止め、改善に努めていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・外部研修の案内を発信している。また、オンライン研修も受けられるようシフトの調整に努めている。	・希望する研修に参加できるよう調整していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・ホームページで閲覧できるようにしている。	・適宜見直し、必要に応じて改善していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・年齢に応じた調査票を用い、家庭での様子と事業所内での様子をそれぞれの視点から見て情報をすり合わせている。	・本人にとって今必要な支援は何か、先を見据えた時に必要な支援は何かを保護者の想いを汲み取りながら見極めていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・ケース会議等で個々の支援方法について話し合い、共通理解のもと計画に盛り込むようにしている。	・個々の特性や状況把握に努めていく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・クラスで共通意識をもって支援にあたるよう、日々の話し合いの時間を設けている。	・支援の意図に関わる職員みんなが理解できるようにしていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・日々の記録に加え、ケース記録、関わる機関への聞き取りなども参考にアセスメントしている。	・今後もインフォーマルなアセスメントも活用していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・家庭の状況と事業所での状況を含め本人のために必要な支援を家族と共に考えている。	・必要な時に必要な支援ができるように先を見据えて支援の準備を常に続けていけるよう務める。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・クラスごとや職種ごとに話し合い、月案、週案を立てている。	・関わるすべての職員の情報共有に努める。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・年間の目標を立て、その姿に近づくように月ごとにねらいを立てている。	・季節を感じたり、こどもたちが興味を向けるにはどうしたらよいか、発達を促す視点を大切に活動内容を考えていく。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	・個々の状況を見極め、個別、集団のそれぞれのねらいを明確にし、作成している。	・個々の特性や成長段階を見極めた上で支援計画を立てていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	・配置や活動は前日にボードに記入し、職員間で共有している。当日も朝の朝礼時に確認し、一日の流れを確認している。	・打ち合わせで職員の役割を明確にし、チームで意識して支援していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	・支援終了後には振り返りを行い、周知事項はノートに書き留めたり、アプリを活用して情報共有している。	・大切なことは周知することを怠らないよう努めていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	・日々の記録を基にモニタリングを行い、担当者会、ケース会議等で検討を重ねている。	・日々の記録を充実させ、話し合いや検証する時間の確保にも努めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	・定期的かつ個々の成長に合わせてモニタリングを行い、支援の見直しを行っている。	・引き続き成長段階に応じて見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	・積極的に参加し、情報共有に努めている。	・直接担当している職員や看護師が参加できるように調整をしていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	・必要に応じて関係機関と情報共有し連携に努めている。	・今後も積極的な連携に努めていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・移行のための情報提供資料を作成し、引継ぎをスムーズに行えるようにしている。また必要に応じて話し合いの場も設けている。	・今後も積極的な連携に努めていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・就学前には学校と連絡をとって支援内容の共有ができるようにしている。	・相談支援や就学相談とも連携をとりながら、スムーズに移行できるよう努めていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○	・近隣のセンターと情報交換したり、お互いのセンターへ実習へ行く等、交流している。	・今後も近隣のセンターと会議や実習を通して交流を図り、質も向上を目指していく。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○	・外部からの研修案内にもアンテナを張り、必要な研修は可能な限り参加できるように調節している。 ・嘱託医や顧問の専門医より助言を受ける機会を作っている。	・一人一人が知識を習得しスキルアップできるようにしていく。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	○	・できる限り出席するようにしている。	・引き続き参加できるように調整していく。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	・地域のこども園と定期的に交流している。	・こどもたちにとって充実した交流となるよう園と話し合いながら進めていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	・登園時、降園時には保護者と会話する時間を設け、こどもの状態確認をしている。	・些細な様子の変化を見落とさないよう、また話しやすい環境となるよう努める。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	・職員はペアレントプログラムなどの研修で知識や技術を習得し、個々の相談に応じ助言等を行っている。	・ご家族と同じ視点で支援できるよう個々にあった対応の仕方を検討し、家庭でもできる支援を一緒に考えていけるよう努める。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時には必ず説明するようにしている。事業所が大事にしていることも伝えるようにしている。	・変更があった時には都度説明し、同意を得ている。 ・アプリも活用し、保護者へ周知していく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・定期的なアセスメントや懇談会で保護者の意向など確認するようにしている。	・モニタリングの時期には毎回家族の意向を確認していく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・登降園時に保護者に時間をつくってもらい説明し同意を得ている。	・保護者と話す時間を確保し、丁寧に目標や支援の意図を説明していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・必要に応じて適宜相談にのっている。抱えている問題に素早い対応ができるよう心掛けている。	・日頃より相談しやすい関係を築いていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・事前にアンケートにてどのような形で交流会を行うのが良いか意見を聞き開催するようにしている。	・今後も保護者のニーズを確認しながらよりよい交流会になるよう努めていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・申し出があった際にはすぐに動ける体制をとっている。事業所内で体制がとれない場合は法人内で協力し対応している。	・いつでも対応できる旨を保護者に伝え、安心して利用できるようにしていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・毎月のおたよりや行事のお知らせなど電子ツールで発信している。活動の様子も個別に知らせている。	・どのような方法で発信していくことが保護者にとって良いのか今後も検討を重ねていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・同意を得るとともに、事業所内では鍵のかかる場所に保管し、取扱いには十分注意している。	・保護者の同意を得て、正しく取り扱っていく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・それぞれの特性に合わせて伝達方法を変えている。	・本人や保護者の特性を十分に理解した上で出来る限り配慮していく。
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・地域のお祭りや作品展に参加したり、法人主催のイベントに地域の方に声をかけたりし交流する機会をつくっている。	・施設を開放できる機会やイベントを企画していく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・マニュアルを策定し、様々な場面を想定し訓練している。保護者には電子ツールと掲示にて知らせている。	・定期的にマニュアルの見直しに努める。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・月に1回以上、災害時に備えた訓練や防犯訓練を行っている。	・策定したBCPを職員がしっかり把握し、訓練に活かしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・利用前に服薬状況や予防接種、発作など健康状態がわかるよう所定の様式にて保護者に記入してもらっている。	・年度ごとに見直し、情報の更新に努める。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・アレルギーの調査を利用前に行うとともに必要に応じて医師の指示書を依頼するようにしている。	・年度ごとに見直し、情報の更新に努める。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・安全計画に基づいて、遊具の点検、防災訓練など行っている。	・こどもたちも保護者も職員も安心して過ごせるよう安全管理に努めていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・電子ツールと掲示で取り組み内容を知らせている。	・今後も電子ツールと掲示にて見直しの度に伝えていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・忘れずに気軽に記せるように共有のノートに記載している。	・ヒヤリハットがあった時には素早く周知し、対策を徹底していく。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・部署内研修では、虐待につながるかもしれない事例をあげ、職員みんなで考える機会を設けている。	・虐待に対する研修に積極的に参加を促していく。また日々話し合いを大事にする。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・組織内で検討を重ねた上で保護者に同意を求めようようにしている。	・やむを得ずの内容を全職員、保護者が理解できるよう統一した書式にて記載し、情報共有し、時期を決めて見直しをしていく。	